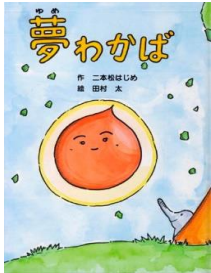


先生のおすすめ絵本

夢わかば

〈作〉二本松はじめ 〈絵〉田村太 〈出版〉音楽センター



[子ども それは夢、子ども それは希望、子ども それは未来、子ども それは宝] という作者の思いが表紙の裏に記されていて、ページをめくると とてもあたたかな絵で、ほっこりした気持ちになります。ひまわり組では うたにのせて読んでいたのですが、くり返し手に取っているで みんな上手になってきました。

みんなは「ちいさなちいさなゆめわかば」。これから「どんなはなをさかすのか」。「それはぼくらがきめていく」！！

お家の人も子どもたちの未来が楽しみですよね。
心にまっすぐ届くことばがたくさんので大好きです。

ひまわり組 S 先生

ぺんぺんいちざ

〈作〉石津ちひろ 〈画〉いぬんこ 〈出版〉福音館書店



毎月 月末に持ち帰る月刊絵本から、今年の2月に持ち帰った絵本です。

「あちらこちらを旅してまわる ペんぺんいちざでございます」旅の一座の座長”ペンきち”の挨拶から始まり、絵本を開けばまるで舞台の目の前にいるような気分。色々な動物達が得意な芸を次々と披露していきます。

座長の喋る早口ことばのようなセリフと、リズム感の良い言葉の組み合わせはおもしろく、見ている子供たちは大声で笑って楽しんでいたのはもちろん、読み手側も楽しい気持ちになる一冊です。ですが、このセリフを噛まずにテンポよく読まないと、舞台の臨場感は出せないぞという使命感にかられ、私は声に出して何度も練習してしまいました。読む際は是非、言葉のリズムを楽しみながら、座長の気分になって読んでみて下さい。見ている子ども達はきっと、その世界に引き込まれることでしょう。

あひる組 K 先生

読み聞かせノートより

ごきげんのわるいコックさん

〈脚本・画〉 まついのりこ
〈出版社〉 童心社



紙芝居を出したとたん「ぼく知ってる」「私知ってる」が飛びかいたザワザワ！でも読み始めるとしっかり聞いてくれました。ごきげんのわるいコックさんに話しかけるとコックさんの顔がぐにゃぐにゃ、カチコチ、そしていなくなり、コックさんを一緒に探したり、声掛けして振り向かせたり、コックさんの作ってくれた料理のにおいや味などをイメージさせたりと、参加型の紙芝居です。できたペロペロキャンディをみんなにあげるところでは、子どもたちが紙芝居の中のキャンディをとろうと近づいてきて騒然としましたが、とても可愛らしかったです。

〈たんぼぼ組 Uさん〉

あやちゃんのうまれたひ

〈作・絵〉 浜田桂子
〈出版社〉 福音館書店



ふじ組の子どもたちと同じ、あやちゃんは今もうじき6才になります。そこでお母さんは「あやちゃんのうまれたひ」のことをじっくりと丁寧にそれはそれは宝ものように話してくれます。みんなもこんな風に大切に生まれ育ってきた6年間。こんなに大きくなってくれてありがとう。感謝の思いを込めて読みました。

〈ふじ組 Yさん〉

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。



編集後記

ブレーメン通信を一年間読んでいただき、ありがとうございました。読み聞かせに行った時の 我が子の嬉しそうなお表情や、子供たちの素直な反応に、私もクラスの一員になったような、とても楽しい時間を過ごすことができました。おうちの人や先生方の読んでくれた絵本が 子供たちの心にあたたかい記憶として いつまでも残ってくれたら嬉しく思います。

〈2019年度ブレーメン代表 ふじ組 T〉